

平成 28 年度「ふるさとやまぐち生活体験活動推進事業」実施報告書

周防大島町立明新小学校 第5学年 (21名)・三蒲小学校 第5学年 (4名)・沖浦小学校 第5学年 (3名)

平成 28 年 8 月 1 日～8 月 3 日 実施

1 活動のねらい

- 宿泊体験活動を通して、児童の社会性や豊かな人間性を育てる。
- 農漁村の自然や人々との交流の中で、活動される方々へ感謝の気持ちを持ち、自然と関わって活動するすばらしさ、重要性を感得させる。
- 自主・自立的な共同生活を通して、規律ある生活態度を身に付けさせる。

2 全体の指導計画 【主な活動地域名：各学校・周防大島町東和地区】

	期 間	活動の内容	時数
事前指導	7月1日～ 7月19日	○体験活動の計画確認 ○体験活動の自己目標設定と自己紹介	4
実施	8月1日～ 8月3日	○東和地区での自然体験、農漁村の自然・生活・職業体験	12
事後指導	9月1日～ 9月9日	○民泊受入れ家庭への手紙(近況報告含)作成 ○民泊体験の振り返り	3

3 活動の展開

8月1日(月)		8月2日(火)		8月3日(水)	
8:00	入村式・対面式 各家庭で家業体験	8:00	朝食 家業体験	8:00	朝食 家業体験
12:00		12:00	昼食 家業体験	12:00	離村式
17:00		17:00	夕食・入浴 自主学習(日記・手紙) 健康観察	17:00	
22:00		22:00	就寝	22:00	
家業体験は、竹切り、そうめん流し、海岸探索、海水浴、みかんの摘果、ジュース作り、魚さばき、漁、魚釣り等、各民泊家庭により内容が異なる。					

4 実施上の留意点

- 事前打合せで、各校教諭と児童の健康状況や人間関係を十分に協議した上で、各校で班編成を決めた。
- 養護教諭と学級担任が健康調査票を作成し、体験活動の約1か月前に調査を実施した。アレルギーなど保護者が事前に民泊受入れ家庭に伝えておきたい内容について整理し、それぞれの受入れ家庭に事前連絡を行った。
- 事前に周防大島町体験交流型観光推進協議会と入念な打ち合わせを行い、けがや病気等の事態を想定し、緊急連絡体制を確認し、共通理解を図った。民泊活動中、夜間は校長が緊急対応の窓口となり、緊急事態に備えた。
- 体験活動後の児童の日記や作文及び活動の様子を学校便りや学級通信に掲載し、児童の成長と学びの成果を地域の方や保護者に紹介した。

5 活動の成果と課題

(1) 成果と課題

- 大島の農漁村の自然や民泊受入れ家庭との体験・交流を通して、本物の活動体験や他者とのコミュニケーションの場が設定され、感動あふれる充実した3日間となった。
 - 受入れ先家庭での体験は、林業・漁業・自然・生活体験と多岐にわたっている。特に、児童の心に残った内容としては、《釣り・漁・魚さばき・みかんの摘果・ごはん作り・木や竹の加工》などがあり、生活作業や周防大島町ならではの仕事に生き生きと取り組むことができた。
 - 児童の感想より
 - ・自分で魚をさばいたり、竹や木を切ったりすることができるようになった。
 - ・大島の文化や伝統を学んだ。これからも学びたい。
 - ・日頃うちの人がやっていることは、すごく大変だということが分かった。
 - ・お父さん、お母さんの気持ちやつらさが分かった。
 - ・ふるさとの自然を守らないといけないと思った。
 - 夏休み中に実施するため、事後指導まで期間が開いてしまい、一過性の体験となりがちとなる。学校生活や家庭生活に十分生かすことができるような指導計画の工夫が必要である。
- ##### (2) 今後の改善点
- 民泊で体験したことを、しっかり家庭で伝え、夏休みの手伝いに反映させるとともに、2学期に体験したことを振り返る時間を、しっかり確保することが必要であろう。
 - 体験したことを発表したりまとめたりしながら、再発見したふるさとのよさを確認する学習を仕組むことを考えていきたい。



【海岸探索】



【波止場釣り体験】



【竹切り体験】



【磯探索】



【お見送りの様子】